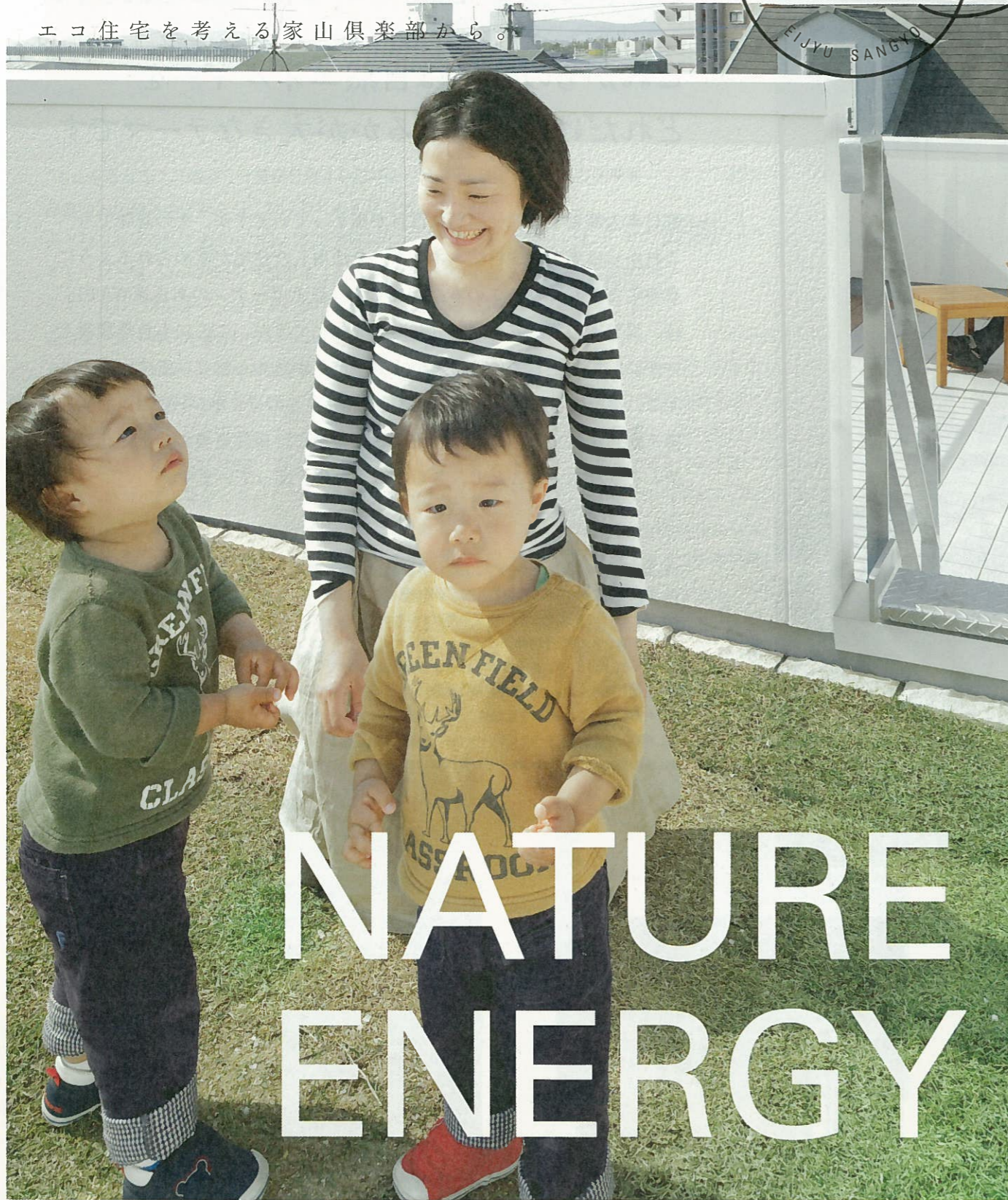


家山通信

UCHIYAMA TSUSHIN

エコ住宅を考える家山倶楽部から。



NATURE ENERGY

家山倶楽部 INFORMATION

NEWS 『エコライフコーディネーター』にお電話ください



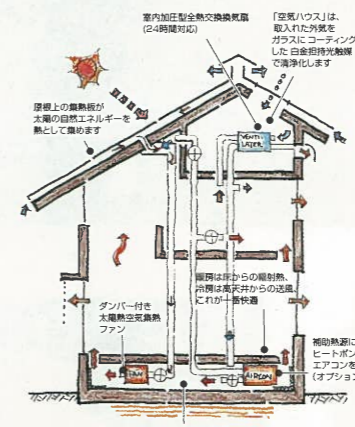
栄住産業では、これからのエコ社会実現に向け、社内スタッフとしてエコ商品情報発信の窓口となるエコライフコーディネーターの育成をはじめました。主に下記の業務を行いますので、どうぞご活用ください。

- ◎屋上緑化ガーデンのデザインや施工についてのご案内
- ◎屋上緑化グリーンマップ制作活動とそのアドバイス
- ◎住宅用エコ素材や設備についての調査&ご提案受け
- ◎太陽光発電やパッシブソーラーシステムについてのご相談受け

上記の他、エコ住宅に関するご質問全般について承り、その後、必要に応じて専門スタッフがご対応させていただきます。

新商品 パッシブソーラーシステムの「そらどま」

建築家・丸谷博さんが開発されたパッシブソーラーシステム「そらどま」の取扱いをはじめます。同システムは、日本のソーラーシステムをリーディングしてきた丸谷さんが考えた最もシンプルなパッシブソーラーシステムであり、設備を必要最小限にとどめることで最も素材でリーズナブルなシステムになっています。その上で、白金担持光触媒をガラスにコーティングすることで、室内に取り込む空気を清浄化しているのも大きな特色です。施工認定工務店の登録もオープンな運営になっていますので、お気軽にお問い合わせください。

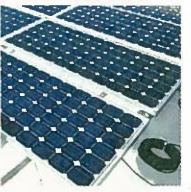


そらどま SOLAR DOMA 「そらどまの家」システム概念図

●お問合せ先：そらどま事務局（プロトハウス内）0120-2610-83
coa@protohouse.net

新商品 太陽光パネルを強力な磁石で屋根に設置するレインボウマグソーラーシステムの取扱いをスタート

今までのソーラーパネルの設置方法は、屋根に穴を開けてボルトで固定するのが一般的でした。しかしこの方法には雨漏りを引き起こす可能性という大きな欠点がありました。そこで開発されたのがレインボウマグソーラーシステム。強力な磁石を使って太陽光パネルを金属屋根に設置しますので、雨漏りの心配もなく安心です。しかも弊社独自の10年保証。太陽光発電パネルの設置をご希望の方はお気軽にお問い合わせください。



家山倶楽部をご一緒につくりましょう。

家山倶楽部は「家を山にして気持ちよく暮らしましょう」という栄住産業からのメッセージをゆっくりと伝えていく活動です。あなたのロハスライフにお役にください。また、こんなエコな情報がある!といった情報提供もお願い致します。

●お問い合わせ <http://www.eijyu.co.jp>

- [本社] 〒812-0063 福岡県福岡市東区原田3丁目5-6
TEL 092-622-6292 FAX 092-611-9697
- [関東支店] 〒182-0024 東京都調布市市田2丁目4-6 アムールビル1F
TEL 042-442-4785
- [神奈川営業所] 〒254-0012 神奈川県平塚市大神2085-4
TEL 0463-51-4404
- [千葉営業所] 〒262-0042 千葉県花見川区花島町141-2
TEL 043-215-1350
- [埼玉営業所] 〒341-0044 埼玉県三郷市戸ヶ崎2丁目675-2
TEL 048-948-0377
- [東北営業所] 〒983-0034 宮城県仙台市宮城野区扇町7丁目5-6
TEL 022-388-6830
- [北関東営業所] 〒321-0973 栃木県宇都宮市岩曾町1311-2
TEL 028-683-0170
- [関西支店] 〒579-8063 大阪府東大阪市横小路町5丁目10-33
TEL 072-985-9600
- [中部営業所] 〒491-0074 愛知県一宮市東島町3丁目29-1
TEL 0586-28-7775
- [姫路営業所] 〒672-8021 兵庫県姫路市白浜町宇佐崎中1丁目25
TEL 079-247-2550
- [四国営業所] 〒769-0101 香川県高松市国分寺町新屋3582-7
TEL 087-813-8321
- [広島営業所] 〒731-3161 広島県広島市安佐南区沼田大字伴2217-1
TEL 082-848-4615
- [福岡営業所] 〒812-0063 福岡県福岡市東区原田3丁目5-6
TEL 092-622-6292
- [北九州営業所] 〒800-0206 福岡県北九州市小倉南区葛原東5丁目2-16
TEL 093-475-0966
- [大分営業所] 〒870-0156 大分県大分市高城新町14-16 高城ルネビル1F
TEL 097-503-1902
- [熊本営業所] 〒861-3203 熊本県上益城郡御船町高木4760-1
TEL 096-282-4650
- [長崎営業所] 〒851-2101 長崎県西彼杵郡時津町西時津郷1000-168 (第7工区)
TEL 095-881-0956
- [鹿児島営業所] 〒892-0871 鹿児島県鹿児島市吉野町4584-1
TEL 099-295-7060
- [ビュアウッド工房] 〒819-0015 福岡県福岡市西区愛宕2丁目11-34-407号
TEL 092-894-2443

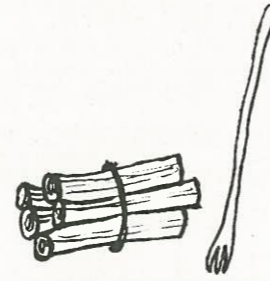


家山のススメ

Uchiyama no susume

岐阜県にある薪ストーブ専門店でも
屋上緑化システムが採用されています。

岐阜県各務原市にオープンしている薪ストーブ専門店「ファイヤーライフ岐阜」の屋上にも栄住産業の屋上緑化システムが採用されています。ファイヤーライフ岐阜は同地に本拠を置く株式会社大幸住宅さんが薪ストーブを使った自然暮らしを提案するために、その情報発信拠点として開設した施設です。
裏山へと続く広々とした敷地には薪割り場や薪置き場が設けられ、お客様と山林に入って木材を伐採してはここに持ち込み、みんなで分担して薪割りを楽しむのだとか。辺り一面には、木屑が腐葉土のように積み重なり、木材が発する森の潤いに満ちた香りが漂っています。
この施設のデザインを手掛けたのは東京在住の建築家・坪井当貴さんです。サンルームに貯まった暖気を冬の暖房に活用する等、普段から自然エネルギーをうまく用いた住宅設計を行っている建築家です。店



内には薪ストーブや薪割り用の斧等を展示するコーナーとストーブで使う調理器具やアクセサリ類等を展示したコーナー、それにイベントスペースが設けられています。また併設した建物には同社が長年取り組んできたOMソーラーが設置されています。
この建物に居ると、薪が静かに爆ぜる音に心が癒されます。室内の床や壁にも自然素材が使われているので、薪ストーブから生まれた暖気がじんわりとその自然素材たちに伝わっていき、気持ちのいい温熱環境が醸成されます。そして、その屋上であって屋根面をしっかりと断熱しているのが屋上緑化なのです。この屋上緑化で一番工夫したのが、煙突が突き出ている部分の施工でした。当然ながら煙突は火力を帯びた空気を排気するため管そのものは熱くなっているためその周囲を耐熱レンガで被い、熱が伝わらないようにしたのです。数種類の植物を



01
手前が屋上緑化した屋根。奥にある切妻屋根の家にはOMソーラーのパネルが設置されています。



02
薪割り場から裏山へとつながるこの場所は、参加者の憩いの広場になっています。



03
ファイヤーライフ岐阜では薪ストーブの正しく楽しい使い方をサポートしています。メンテナンスもばっちりです。

植えたただらかな傾斜屋根から土地が崩れないように土留めもしっかりと行いました。このような屋上緑化や壁面緑化を施した店舗や大型商業施設が急速に増えています。それは、都市部のヒートアイランド化防止に直結するのはもちろん、地球温暖化防止へも確実に繋がっているからだと思います。
今回の大震災以前と以降とは、人の価値観が大きく変化するのではないのでしょうか。よりナチュラルなライフスタイルを求める人が増えていき、自然エネルギーを使った暮らしに改めて注目が集まります。企業活動のシンボルとも言える店舗で、屋上緑化等を行うことは、自らが、そんな環境共生型企業であることをメッセージすることに他なりません。

●ファイヤーライフ岐阜 岐阜県各務原市各務山の前町2丁目103番地 Tel. 058-322-9991

家山の家ができました

Uchiyama House Completion #02



01

建築家

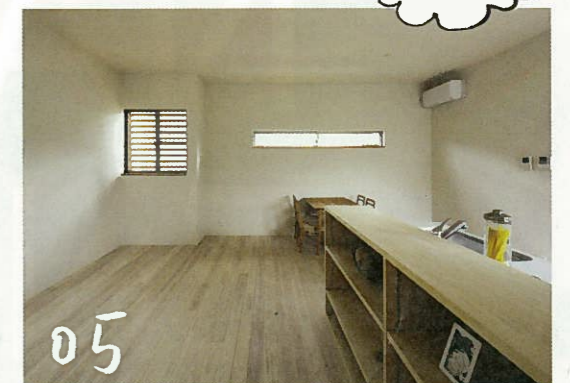
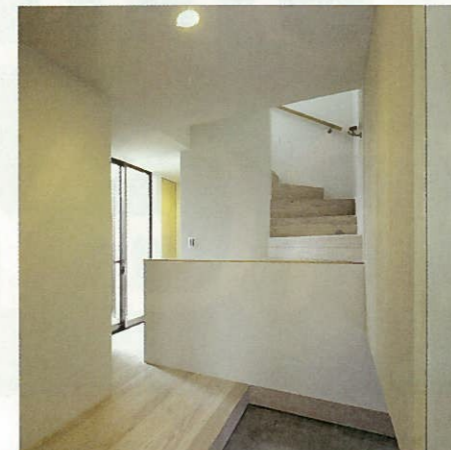
相良友也 × 栄住産業

これからの住宅は自然エネルギーを
どれだけ活用できるかが大きなテーマです

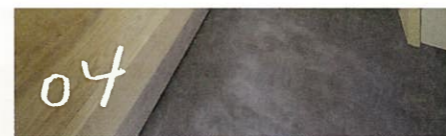
東日本大震災では原発問題に注目が集まっていますが、その意味でも、これからはますます自然エネルギーを活用した住宅が求められるようになることでしょう。この春に完成した「屋上ガーデンのある家WAPI」は、建築家の相良友也が設計した建売住宅ですが、ここにも自然環境といたして共生していくかというアイデアが込められています。この住宅は、福岡に本拠地を置く眞鍋建設と相良さんのコラボレーション企画。構造から床材まで国産材にこだわる同企画に、栄住産業の屋上緑化システムをプラスすることで、さらなるエコ化を図っています。

- 01. 2段構成となった屋上ガーデン。下はタイル敷きで上が芝生貼りです。
- 02. 2棟同時に分譲される建物の外観。一部に格子を張ったモダンな建物です。
- 03. 屋上へは広々とした2階ベランダの階段から上がります。
- 04. 玄関はシンプルな土間仕上げ。シューズボックスもオシャレです。
- 05. 広々としたリビング。手前の棚はキッチン背面の造り付けです。
- 06. 全面に芝生を貼って屋上緑化した部分。パラベットが周囲を囲っているので安全です。
- 07. ダイニングからキッチンを見た感じ。床は国産の杉に自然塗料で薄白く塗装しました。
- 08. 1階の和室と個室をつなぐウッドデッキ。開放感があふれます。
- 09. 夜の外観とファサード。格子からみられる灯りに情緒感が深まります。

福岡市城南区梅林
建売住宅



05

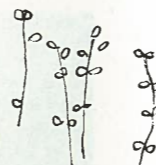


キーワードは「便利な自然暮らし」

相良友也さんは、福岡を拠点として活躍する若手建築家で、心地よさと上質さをうまく融合させた住宅を設計することに定評があります。情緒感あふれるその感性で建売住宅を設計したらどんな住まいが誕生するのだろう、と全国で家づくりをプロデュースしているプロトハウス事務局のコーディネーターで、真鍋建設が進める建売住宅プロジェクトに参加することになりました。その建売住宅のキーワードは「便利な自然暮らし」。今春発売される住宅は、平成17年に新しく開通した福岡市営地下鉄七隈線沿駅から徒歩7分という利便性この上ない都市型立地ですが、そんな便利な都市生活に、自然暮らしの開放感をプラスできないかと企画されたのです。都心に近付けば近付くほど土地の値段が上がっていくのは日本全国共通しています。また建売住宅として販売できる価格帯にも相場観があり、販売価格をあまり高額に設定すれば、売主のリスクはそれだけ高まってしまいます。上記

の建売住宅の1戸当たり敷地面積も約40坪となり、駐車場を2台分確保したら、「庭」と呼べる緑の空間を設けるのは物理的に難しくなってしまう、という現実と直面。そこで、このデメリットをメリットに転換し、さらに「便利な自然暮らし」を実現させようということで、屋上ガーデンのアイデアが生まれ、栄住産業の屋上緑化システムが採用されることになったのです。

屋上に本格的な「ガーデン」を設けた住まい



このプロジェクトの核となる「屋上ガーデン」ですが、当初はそれを「屋上緑化」ととらえていましたが、より幅広い利用シーンを連想できるようにと、「屋上ガーデン」と呼ぶようにしました。施工方法は屋上緑化システムであり、実際に芝生を貼った「土の部分」も設けるのですが、デッキやタイ

ルを貼る部分も設けることで、よりいっそう用途を広げようというわけです。「土の部分」の土厚は、構造的な補強を施せば、ある程度の“深さ”を確保できます。花壇的な草花だけでなく、キュウリやトマトはもちろん、タマネギなどを植える本格的な家庭菜園を造ることも可能になってきます。フラットなデッキやタイルの部分には、アウトドア用のデッキやチェアを置いたり、また洗濯干しスペースとして活用することもできます。デザイン次第では、デッキと「土の部分」をうまくレイアウトして、バーベキューコーナーのあるハーブガーデンや、小さな池やカブト虫の生育場所（枯れ木と腐葉土で造る自然のコンポストのような場所）といったピオトープを造り出すことも夢ではありません。



リビングと屋上のいい関係づくり

この屋上ガーデンをずっと使っていただくことと、開放的な

視界を獲得するために、この住宅では、2階リビングプランを採用しています。敷地が狭い都市型住宅では、1階にリビングを配置すると隣家や前面道路との関係で、開放感を得る間取り計画が難しくなります。そこで最も採光が期待できる2階の前面道路側にリビングを設け、そこからキッチンとダイニングを描き、さらに他の居室のレイアウトを決めていきました。その中で大切なのは、「リビングと屋上のいい関係づくり」。このプロジェクトでは、2階にベランダを設け、そこから階段を用いて屋上ガーデンへと上ることができるようにしたのですが、このベランダの大きさや配置場所、そしてそれと関連する居室や浴室等の設け方次第で生活動線にも大きな違いが出てきます。ここでは2つの敷地に対して、それぞれ異なるプランを提案していますが、いずれも「リビングと屋上のいい関係づくり」を実現した内容です。例えば、キッチンからベランダが見えて、そこから屋上へと上って行く子供達の姿が見えるプランなどは、住空間の中に縦方向の繋がりが生まれ、それだけで毎日の暮らしが楽しくなりそうです。

Architect message

「建築家の思い」

二つの個性、一つのコンセプト

—— 屋上ガーデンのある建売住宅。

国産材にこだわった住宅企画「WAPI」に取り組む中で今回のお話をいただきました。私としては初めての建売分譲住宅のデザインですので、どこまでを提案していいのか手探りでした。販売側としてはどうしても個室を3室と和室を確保したい、さらに屋上にはガーデンを設けたいという要望があり、必然的に2階にリビングとキッチンを配置することになりました。1階には個室群を配置しましたが、開放感も欲しいので個室と個室の間に光庭のようなデッキを設けるなどの工夫を行いました。建売分譲では、これまで

の販売実績からどうしても反響を期待できる一般受けする間取りのデザインへと落ち着いていきます。しかも住宅の仕様も敷地条件もほぼ同じですが、それぞれにある程度の個性は必要というリクエスト。つまり、同じモノ二つを連棟で造るのではなく、二つの個性を一つのシリーズとして共存させる必要があったのです。プラン上では、2階から屋上へのアプローチの仕方や屋上のデザインを核にそれぞれの個性を描き、建物全体を介して回遊できるような生活動線をデザインしていきました。



相良友也
相良友也建築工房